

第5回(最終回)群馬県内モニタリングポスト見学ツアー報告

～今、県内北部の放射線量はどうなっているか～

田村 ゆう子

秋晴れの10月3日(水)午前8時、5回目最後となるモニタリングポストツアーがスタートした。2015年10月1日に第1回を実施して以来、県内の25か所すべてのモニタリングポストを回る3年越しの調査の最終回である。今回は過去4回のツアーで残ってしまった嬭恋村、高山村、みなかみ町、片品村の4か所のモニタリングポストを見て回った。総走行距離は約300km、起点の前橋公園の駐車場に戻ってきたときには、すっかり暗くなっていた。

4か所の放射線値は

4か所とも前回までの多くのモニタリングポストと同じように役所などの駐車場の片隅に設置されていた。



嬭恋村では、目立たないが駐車場の役場を訪れる人に見えるところ

に設置されていた。表示された線量は $0.028 \mu\text{Gy/h}$ ($1 \mu\text{Gy/h}$ は $1 \mu\text{Sv/h}$ とほぼ同じ値とみてよいとされている。モニタリングポストは $\mu\text{Gy/h}$ で表示されている) で低くなったなあと思った。高山村役場では、建物の裏の職員駐車場の端にあった。周囲は草が伸び放題であった。

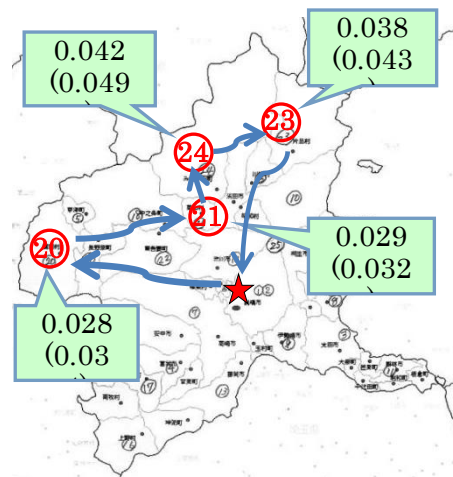
ポストの値は $0.029 \mu\text{Gy/h}$ 、10分後に $0.028 \mu\text{Gy/h}$ に変わり低



かったが、10m ぐらい離れた草むらで、私たちが持参した測定器 Radi で測ったら $0.1 \mu\text{Sv/h}$ を超えていた。全調査を通してモニタリングポストより Radi の方が 1.5 倍ぐらい値が高く表示されたが、それにしても高いのに驚いた。みなかみ町では、水上支所の除雪車や工事車両の置き場にもなっている広い駐車場の隅にあった。すぐ前には土嚢が積んであった。 $0.042 \mu\text{Gy/h}$ で今回の4か所中最も高かった。原発が爆発した直後、放射能雲が来て上越国境の山にぶつかり雨が降ったことが思い出された。片品村戸倉サブセンターの駐車場に着いたときにはもう日が傾きかけていた。モニタリングポストの表示は $0.038 \mu\text{Gy/h}$ であった。

「1 / 25 (25分の1)」! - 驚きの発見

今回の大きな収穫はみなかみ町にあった。県内25か所のモニタリングポストの中でただ1か所モニタリングポストについての説明表示板があったのである。その表示板は、A3サイズぐらいの大きさでモニターの装置を囲むフェンスにかかっており、7年の歳月のせいか文字が

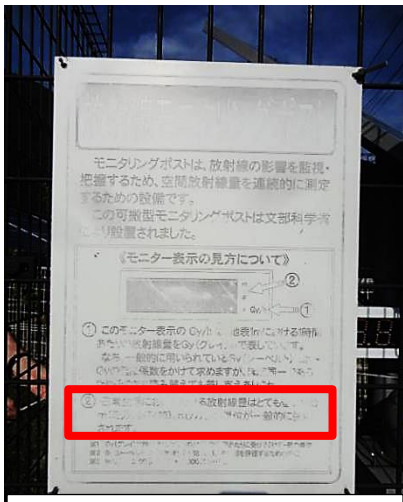


○数字はモニタリングポスト(MP)の番号
□数字上は今回、下は3年前のMP値

あせて読むのに苦労した。このような説明がなければ、この装置が何なのかわからないのではないか。今までのツアーで説明がないことに疑問を持っていたが、みなかみ町の例を見て、説明の掲示は当時各自治体の裁量に任されていたのではないかと思った。

説明に違和感？！

説明表示板の中にモニタリングポスト値の見方について次のような一文があった。「②日常生活において受ける放射線量はとても低いため m(ミリ)、 μ (マイクロ)、n(ナノ)の単位が一般的に使用されます。」(下図四角の部分)たしかに日常生活で長さの単位メートルを使う時には、mm(ミリメートル)、 μ m(マイクロメートル)、nm(ナノメートル)はとても短い単位である。しかし、放射線量であるシーベルトは、1 ミリシーベルトが



25MP中、唯一付いていた説明版

1 年間の許容量であり、これを 1 時間あたりに直せば約 0.1μ Sv/h になる。単純に「とても低い」と表現すると誤解を生むのではないだろうか。

改めてモニタリングポストとは

第 1 回目最初に訪れたモニタリングポストは、チェルノブイリ原発事故などを受けて前橋市にある県衛生環境研究所の屋上に 1990 年に設置された。他の 24 か所のモニタリングポストは福島第一原発事故をきっかけに 2011 年に設置されたものである。

最近、福島では事故後県内に 3000 台設置されたリアルタイム放射線測定システム(モニタリングポストのシステム)のうち避難区域外に設置された 2400 台を撤去する決定がなされた。子育て世代の母親たちが中心となり反対の声が上がっているという(注)。群馬県では、モニタ

リングポストの現状はただそこに置かれているだけであり、上毛新聞紙上でもモニタリングポストの値が記載されなくなり、知らないうちに撤去されてしまうのではないかと心配である。

モニタリングポストは、その場所の人間の五感で捉えられない放射線の存在を住民が知ることのできる唯一の手段である。福島第一原発事故による原子力緊急事態宣言は未だ発令中であることを忘れてはならないと思う。

(注) 『世界』(2018 年 10 月号 P.79~P.80)



モニタリングポストの値は生活圏の値なのか 田村 広史

MP(モニタリングポスト)踏査で最後に残った 4 つの MP は、汚染の程度が比較的高めの地域にあったが、時間の経過もあるのか、今まで踏査した MP の値より、むしろ低め(持参の測定器 Radi で $0.040 \sim 0.058 \mu$ Sv/h)であった。ちなみに藤岡市の自宅の庭(同 0.052μ Sv/h)や屋内(同 0.047μ Sv/h)とほとんど同じである。

ただし、MP の設置された場所から 10m くらい離れた草むらでは、その倍以上高い値が測定された所もあり、MP 値がその生活圏を代表している数値なのか精査の必要性を感じた。



途中で寄った本体工事中のハッ場ダム